

**WEEKLY SIGNAL**

2019年12月6日(金) 1503号

上田八木短資株式会社

**来週の市場とレート予想**

	12/9(月)	12/10(火)	12/11(水)	12/12(木)	12/13(金)
無担保O/N			△ 0.087%	~ 0.001%	
銀行券	△ 700	△ 1,000	△ 2,000	△ 3,000	△ 3,000
財政他	△ 2,700	△ 5,000	△ 22,000	△ 4,000	+ 67,000
資金需給	△ 3,400	△ 6,000	△ 24,000	△ 7,000	+ 64,000
主要要因	国庫短期証券発行・償還(3M)	国庫短期証券発行・償還(6M)	国債発行(5年)	源泉税揚げ	年金定時払い
オペ期日	共通担保 CP買入 社債買入 国債補充供給				
	△ 6,200 △ 100 △ 300 + 600				
オペスタート	国債買入 共通担保				
	+ 11,900 + 5,800				
(日本)	GDP(3Q)			雨宮日銀副総裁、 岡山市の金融経済懇談会で記者会見 日銀営業毎旬報告(12月10日現在)	日銀 短観(4Q) 鉱工業生産(前年比)(10月) 設備稼働率(前月比)(10月)
(海外)		米 FOMC(11日まで)	米 FOMC声明発表、パウエルFRB議長記者 米 CPI(11月)	米 新規失業保険申請件数 (12月7日終了週) 米 PPI(11月) ユーロ圏 鉱工業生産(10月)	米 NY連銀総裁、講演 米 小売売上高

**【インターバンク市場】**

**<インターバンク>**

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.020 ~ 0.030
SPOT 2M	△0.010 ~ 0.030
SPOT 3M	△0.010 ~ 0.060
SPOT 6M	△0.010 ~ 0.100

日銀当座預金残高は、週初401兆8,500億円から始まり、2年国債発行(2日)、10年国債発行と税・保険揚げ(4日)により、大幅に減少し、391兆6,670億円を越えました。  
無担保コールON物は、前月末から一転して、地銀・信託業態の調達意欲が強まったことにより、堅調な地合いが続いた。同金利は上昇の一途を辿り、週末6日は△0.009%と2019年10月15日(△0.009%)以来の高水準となった。  
ターム物は1W~2W物を中心に、主に△0.020%~△0.010%の水準で出合いが見られた。  
6日、足許のレボ金利上昇を受けて、日銀は固定金利方式による共通担保資金供給オペをT/N(12/9~12/10)で3兆円オフアードした。同オペがT/Nで実施されるのは2019年3月8日以来、約8ヶ月ぶり。なお、応札額はゼロであった。  
国内では9日にGDP(3Q)公表、12日に雨宮日銀副総裁の記者会見(岡山市)などがあり、海外では10~11日にFOMC、12日にECB政策金利発表、ラガルドECB総裁

**【オープン市場】**

**<C P>**

CP3M(a-1+)	△0.003 ~ 0.000
TDB 3M	△0.130 ~ △0.080
現先(on/1w)	△0.050 ~ 0.000

今週の入札発行総額は約7,700億円で、週間償還額(約2,500億円)を大幅に上回り発行超となった。5・10日絡みの新規発行や重工業・鉄鋼業態等の大型発行が実施され、活況なマーケットとなった。発行残高は、月末日の21兆402億円から5日時点では約21兆6,748億円となった模様。発行レートは、年内償還物が若干強さみとなり、年越え物は引き続きマイナス~0%近辺の出合いであった。3日にCP等買入れオペが、予定通り3,000億円オフアードされた。結果は、按分レート△0.001%・平均落札レート0.005%と、前回(△0.002%・0.001%)比で、按分・平均落札共に上昇した。  
来週の償還総額(12/9~12/13)は、5,800億円程度となっている。5・10日発行が予定されることから、今週同様に活況なマーケットを予想する。発行レートは、年越し物については引き続き浅いマイナスから0%近辺でのレンジと思われる。13日にCP等買入れオペが3,000億円程度オフアード予定。

**<TDB>**

6日の3M物874回債(3/16償還)の入札結果は、最高落札利回り△0.0986%(前回債△0.1507%)、平均落札利回り△0.1187%(同△0.1783%)となり、入札後は△0.095%~△0.107%のレンジで出合いが見られた。そのほかのセカンダリーでは、3M873回債(3/9償還)が△0.150%~△0.130%のレンジで取引された。  
来週は9日に6M物、13日に3M物の入札が予定されている。

**<レボ>**

足許GC取引は、週初から週末まで△0.055%~△0.035%で推移。その後、短期3Mの発行があった9日受渡しではレートはさらに上昇し、一時△0.01~△0.005%まで取引された。  
SC取引では20年169回債・170回債の引き合いが多く見られ、169回債は週を通して△0.1%台、170回債は△0.20%~△0.1%台半ばで取引された。  
その他2年403~406回債、5年137~141回債、10年336~356回債、20年164~168回債、30年59・62~64回債、40年9~12回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。